

# (社)北海道臨床工学技士会ニュース

NO. 71

ホームページ <http://hcea.umin.ac.jp>事務局 [takao.murohashi@nifty.ne.jp](mailto:takao.murohashi@nifty.ne.jp)

発行人：真下 泰

〒004-8618

札幌市厚別区厚別中央2条6丁目

札幌社会保険総合病院 ME部

TEL 011-893-3000

FAX 011-893-4001

## 第17回(社)北海道臨床工学技士会学術大会

～第一報～

会 期 2006年12月3日(日)

会 場 札幌コンベンションセンター

<http://www.sora-scc.jp>

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

TEL. 011-817-1010 FAX. 011-820-4300

上記日程で第17回(社)北海道臨床工学技士会学術大会が開催されます。今年は例年に比べ遅い時期の開催となりますが、会員各位の日常業務及び創意工夫、研究など奮って多数の演題発表をお願いいたします。また、会員のみなさまにおかれましては、時節柄、御多忙のことと存じますが多数の参加をお願い申し上げます。

演題募集方法など詳細が決定次第、北海道臨床工学技士会ホームページ上でご連絡いたします(<http://hcea.umin.ac.jp>)。

## サッポロライブデモンストレーションコース2006

下記日程で心血管インターベンションのライブが開催されます。当日は医師の治療等のライブセッションとは別会場で、コメディカル分野のライブを中心としたディスカッション、講演などを企画しております。参加に際し事前申し込み等は必要ありません。当日の申し込みで結構です。皆様多数の参加、お待ちしております。

詳細内容は、Sapporo Live Demonstration Course 2006のホームページを参照して下さい。

(<http://www.sldc.jp/SLDC2006/index.html>)

会 期:2006年8月31日(木)・9月1日(金)・2日(土)

会 場:京王プラザホテル札幌

〒060-0005 札幌市中央区北5条西7丁目 TEL:011-271-0111

中継病院:

- ・北光記念病院
- ・北海道社会保険病院
- ・札幌東徳洲会病院
- ・市立札幌病院

主 催:札幌心・血管治療研究会

## 第45回日本生体医工学会(旧エム・イー学会) 北海道支部大会

下記の通り、日本生体医工学会の北海道支部大会が開催されます。皆様多数ご参加下さいますよう宜しくお願いします。

**会期** 2006年10月14日(土)午後1:00～  
**会場** 北海道大学電子科学研究所講堂  
札幌市北区北12条西6丁目

## 日本集中治療医学会第15回北海道地方会

下記の通り日本集中治療医学会の北海道地方会が開催されます。臨床工学技士の一般演題も予定されていますので、こちらも多数ご参加下さいますよう宜しくお願いします。

**会期** 2006年10月14日(土)  
**会場** 大正製薬ビル  
(札幌市中央区南4西9-1007)

## 第1回血液浄化セミナー終了



写真1

去る平成18年7月9日、札幌市教育文化会館におきまして第1回血液浄化セミナーが開催されました。当日は臨床工学技士、看護師など定員いっぱい約150名もの人たちが受講されました。講演をしていただいた諸先生方には、この場をお借りして御礼申し上げます。

## 評議員・各委員会委員 決定しました

(社)北海道臨床工学技士会の評議員並びに各委員会委員が決定致しました。これからの(社)北海道臨床工学技士会の活動、運営にご協力よろしくお願い致します。

### 【評議員】

阿部 正道 (苫小牧日翔病院)  
大澤 貞利 (釧路泌尿器科クリニック)  
奥山 幸典 (旭川赤十字病院)  
河田 修一 (市立旭川病院)  
岸 則和 (函館五稜郭病院)  
小林 勝 (滝川市立病院)  
宗万 孝次 (旭川医科大学病院)  
高橋 秀一 (N T T東日本札幌病院)  
成田 孝行 (旭川厚生病院)  
平間 秀昭 (名寄市立総合病院)  
古川 博一 (手稲溪仁会病院)  
三浦 良一 (砂川市立病院)  
宮本 和之 (恵み野病院)

### 【各委員会委員】

#### 広報委員会委員

嵐田 健太郎 (時計台病院)  
奥山 幸典 (旭川赤十字病院)  
窪田 将司 (市立旭川病院)  
宗万 孝次 (旭川医科大学病院)  
野尻 誠 (北彩都病院)  
平間 秀昭 (名寄市立総合病院)  
本手 賢 (道北病院)

#### 学術委員会委員

足立 勇 (砂川市立病院)  
阿部 正道 (苫小牧日翔病院)  
大澤 貞利 (釧路泌尿器科クリニック)  
小林 勝 (滝川市立病院)  
佐々木 雅敏 (N T T東日本札幌病院)  
高橋 秀一 (N T T東日本札幌病院)  
三浦 良一 (砂川市立病院)  
宮本 和之 (恵み野病院)

#### 安全委員会委員

河田 修一 (市立旭川病院)  
岸 則和 (函館五稜郭病院)  
国木 里見 (網走厚生病院)  
佐藤 光人 (苫小牧日翔病院)  
成田 孝行 (旭川厚生病院)  
古川 博一 (手稲溪仁会病院)

## RM ニュース

### <呼吸器の無資格操作認める>

帝人グループの系列会社で医療機器レンタル会社の所員が、無資格で在宅患者の人工呼吸器を操作していたことが同社の調査で2日、分かった。

同社は、所員の行為が医師法に抵触するかどうかを調査し、近く報告書を県に提出する方針。

同社は、三重県に無資格操作の情報提供があったため、先月29日、調査委員会を設置。これまでの調査で、営業所の一部所員が「営業所員は呼吸器の操作をしてはならない」という社内規定に違反して呼吸器の操作をしていたことが分かった。

県も営業所に聞き取り調査を実施。「資格の無い所員が、どこまで呼吸器を操作していいのか、厚生労働省とも協議をして慎重に調査を続けたい」としている。(6月2日:共同通信社)

### <除細動器578台を回収>

医用電子機器製造販売会社「日本光電工業」(東京都)が輸入販売し、国内の医療機関などに設置されている体外式半自動除細動器(AED)の一部に、不具合発生の恐れがあるとして、同社は6月9日までに、578台の自主回収を決めた。同社から報告を受けた都が発表した。

日本光電工業によると、回収対象は2004年10月から05年2月に出荷した米国製の「半自動除細動器カルジオライフAED-9100シリーズ」。使用開始時に放電できないケースが国内で1件報告されたという。(6月12日:共同通信社)

### <心臓の検査中に男性死亡>

東京都内の病院で2003年11月、男性患者=当時(69)=が心臓カテーテル検査中に容体が急変し死亡したことについて、同病院の医療事故特別調査委員会は9日、男性を集中治療室(ICU)へ搬送する際に「人工肺に酸素が接続(供給)されていなかった可能性が高い」とする報告書を公表した。

報告書は、男性患者には脳梗塞(こうそく)などの既往症があり直接の死因は重い不整脈による脳障害とする一方、人工心肺装置の接続ミスが「何らかの影響があった可能性は否めない」と指摘。遺族への報告が行われなかったことも「主治医は十分反省すべき」とした。

病院長は「当初医療事故としての認識がなく、調査が遅れたことで、ご遺族にご不審を抱かせましたことは残念でなりません」と謝罪している。男性患者の遺族に昨年9月、医療事故を指摘する文書が届いたため、同病院は調査委員会を設置し、院内の記録などを調査した。(6月12日:共同通信社)

### <ペースメーカーを自主回収>

米国製の植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器に不具合発生の恐れがあるとして、輸入販売会社「日本ガイダント」(東京都港区)は26日、計2978台の自主回収や改修を始めた。

同社によると、対象は心臓ペースメーカーの「ネクサスエントラDR」や、除細動器の「ベンタックプリズム2DR」など。納入先の医療機関は同社がすべて把握しており、患者に植え込まれた1985台は、医師に経過観察を依頼、処置を検討してもらうという。

同一部品を使用したペースメーカーが出力不足になり、患者が失神するトラブルが海外で2件発生。コンデンサーの一部に不良があることが判明したという。(6月27日:共同通信社)

### <心停止、放置し死亡 28分間気付かず>

群馬県病院局は14日、県内の病院で、3月下旬に県内の70代男性患者が心停止状態に陥り、28分間放置され、約4時間半後に死亡したと発表した。遺族の了解が得られず、事故から4カ月後の公表になったとしている。05年度の県立4病院での医療事故による死亡はこれを含め3件に上る。

男性は2月下旬、胸部大動脈瘤(りゅう)で入院。1週間後の手術中に脳こうそくを併発、意識不明となった。その後、のどの切開などの処置を受け、術後25日目に呼吸は安定した。4日後の午後8時28分、心拍モニターの波形が心停止状態になっていることに看護師が気付いたが、記録を見ると、心停止状態になったのは8時からで、28分間見落とされていた。蘇生治療を施し、男性はいったん心拍を回復したが、4時間半後に死亡。死因は人工鼻にたんが詰まっただけの急性気道閉そくとしている。

心拍モニターに異常が起きると、病室とナースセンターの2カ所で警告音が鳴るが、病室の音量は無音に設定していた。ナースセンターは「30人以上の患者をモニターしており、警告音は聞こえていたが、十分に注意を払わなかった」という。事故当時、病棟の当直の看護師は3人、入院患者は死亡した男性を含め37人だった。

同病院は事故後、前橋東署に届け出ており、県医療安全管理委員会に報告している。同病院によると、家族に対し「手術前に脳こうそくが起きるなど、具体的な危険性は説明していなかった」という。金井局長は「引き続き誠意を持って対応し、今後は補償も考えていく」と述べた。

(7月15日:毎日新聞社)

# 頑張れ！フレッシューズ

## 三年目 CE の【日々迷走】～(10)

3年目A

どこか高い山に行きたいね。じゃあ富士山かね。えーちょっと俗っぽくない。でもやっぱり日本人なら一度は行っとかないと。

という母子協議の結果、富士山に登ることになった。年間20万人に登るという日本最高峰である。主な登山道は4つあるが標高差の小さい所は人も多そうなので、今回はややマイナーな須走口という登山口(5合目)からチャレンジすることにした。

富士山の標高は3,776mあるため、高山病の症状が出ないかが一番心配である。特に母はすでに還暦過ぎだが大丈夫だろうか…。事前に少し調べてみたところ、天候の良い日にゆっくり登れば頂上まで行くのはそれほど難しくないが、登山口をくぐって実際に頂上にたどりつけるのは50%程度とのこと(2人に1人は登れない)。それから高山病については3,000m以上になるとたいがい何らかの症状(頭痛、呼吸困難、睡眠障害、手足のむくみなど)が出るらしい。要するに【低酸素状態 換気量増加 低CO<sub>2</sub>血症】になるのが原因だ。

考えてみれば平地で760mmHgの気圧も富士山頂上では約470mmHg。酸素分圧も同様に地上の60%程度しかないわけで、この高度では健康人でもSpO<sub>2</sub>が平均80%になるという。SpO<sub>2</sub>80%といえば病院ならアラーム鳴りまくりの数値だけど、その状態で荷物を背負って歩けるのかと不安になった。

結果はわりと楽勝。手は軽くむくんだものの他には特に症状も出ず、還暦過ぎの母も余裕をもって下山できた。5合目で前泊して体を慣らしたのが良かったのかもしれない。高度に順化しやすいかどうかは年齢や体力とは相関関係が見られず、遺伝的体質によるところが大きいという。たまたまうちの母子は大丈夫だったが、道の脇でぐったりと座り込んでいる家族も何組もいたので、ダメな人は本当にダメなのかもしれない(単にオーバーペースでバテただけかもしれないが)。

次は海外のトレッキングに行こうよ!と母に誘われたが、3日休むのも精一杯なのに海外なんて夢のまた夢。でもいつか行ってみたいなあ。

### 会費納入についてのお願い

今年度の会費を受け付けております。前年度未納の方は、大至急納入していただくようお願いいたします。また、今年度分の会費も早急に納入していただくようご協力お願いいたします。

振り込みの際には、用紙の通信欄に“何年度分の年会費”と記載をお願いいたします。

正会員 5,000円  
賛助会員/賛助団体 10,000円

口座番号 郵便局 02760-8-4815  
加入者名 北海道臨床工学技士会

問い合わせ先  
(社)北海道臨床工学技士会 財務担当理事  
〒064-0809 札幌市中央区南9条西10丁目  
医療法人札幌中央病院 臨床工学科 山本浩幸  
TEL 011-513-0111

北海道臨床工学技士会ニュース			
広報担当	仁友会 北彩都病院	臨床工学科	石川幸広
	旭川赤十字病院	臨床工学課	脇田邦彦
編集委員	旭川医科大学附属病院	臨床工学室	宗万孝次
	旭川赤十字病院	臨床工学課	奥山幸典
	市立旭川病院	臨床工学室	窪田将司

印刷
岡本印刷株式会社
札幌市北区新川西2条1丁目
3番21号
011-766-2551